

留学先：The University of Findlay

氏名： 近藤 芙実歩

みなさんこんにちは。先日日本では東京で54年ぶりの初雪を観測したそうですね。丁度その頃、フィンドレーでも初雪を迎えました。今月のレポートでは、残る2つの授業の紹介、秋学期最大の挑戦、その他の課外活動の三本だてでお送りしていきます。

## ● 授業

### ✓ Introduction to Film Photography：週2回・現地学生と



父から譲り受けたフィルムカメラでアメリカの写真を沢山撮ろうと意気込んでいた私は、フィルム写真学をフィンドレー大学で学べると知るや否や、受講を決めました。1回3時間という授業の長さには驚きましたが、あっという間に感じるほど盛りだくさんです。先生の説明を聞きながらビデオを見たり、暗室で各自の写真を現像・プリントをしたりします。今ではカメラの使い方も以前よりこだわられるようになり、写真を作る行程も全て自分1人でできるようになりました。また、実践系の授業のためクラスメイトと話す機会も多く、尚且つみんなフレンドリーなので、本当に楽しいです。

### ✓ Field Trip：不定期・日本人学生と

私の助言教員でもある日本人の先生による授業です。毎週の授業はなく、主に月に一度のフィールドトリップとミーティングで構成されています。アメリカに来てまでなぜ日本人だけの環境で授業を受けるのか、そう思われる方もいるかもしれません。ただ、この授業では留学中に生のアメリカを見ながら、日本人としての自分に反芻するというプロセスの中で、人種・異文化コミュニケーションについて学び考えます。どれも日本ではできないことばかりです。先日は、かつて奴隷制が残っていたケンタッキー州からオハイオ川を泳いで奴隷制のないオハイオ州に逃げて来た人々をかくまっていた John Rankin の家に行ってきました。



## ● 日本祭りの企画・運営

秋学期最大の挑戦は突然始まりました。10月末に11月半ば開催予定の日本祭りの話を聞き、企画運営をさせていただけることになったのです。福井大学でも語学センターのスタッフとしてイベント企画に携わっていたので、そこで培った経験を活かしながら、開催前は主に宣伝を、当日はス

ページにて司会進行をしました。日本でのイベントとはまた違ったプレッシャーや緊張感を抱きながら迎えた当日は、達成感は味わえたものの課題の多い結果となりました。しかし授業で出会った友達をはじめとして本当に沢山の方が来てくれて、「楽しかった、素敵なイベントだね!」といった声をかけてくれました。その言葉で後期も日本文化を広める活動をもっと積極的にしていこうと励まされました。



## ● その他

### ✓ シカゴへのアートトリップ

11月の最初の週末は、フィンドレー大学からシカゴへのアートトリップに参加しました。2泊3日のプログラムで、美術館はもちろん、シカゴカブスがワールドシリーズを制した歴史的な日の直後だったので、とても賑やかな街の雰囲気も堪能できました。(上部写真右)

### ✓ 大統領選挙



11月8日は夕食後の時間帯から大統領選挙の開票が始まりました。私は留学生のための選挙に関する特別授業に参加し、先生の解説を聞きながら生放送で各州の結果を見て行きました。州によって指示する政党が歴史的な要素も絡みつきっぱり別れてくることや、オハイオ、フロリダ、ノースカロライナなど、支持政党が半々の州が当選の決め手になってくるということを学ぶことができました。結果が出た直後のキャンパスのは、いつもよりほんの少しざわついているような気がしました。そのような学びや雰囲気を味わえることができたのも、選挙の年に留学することができたからなので本当に良かったと思います。

### ✓ サンクスギビングデー

サンクスギビングデーの5連休中は、日本語学科の友達のお家でホームステイをしました。ハロウィンやクリスマスとは違い、日本では全く味わうことのないイベントだったので、留学前から楽しみにしたことの一つでした。当日の七面鳥・パイ、翌日の大安売り“ブラックフライデー”など、いつも以上にアメリカの文化に浸ることができ、素晴らしい経験となりました。

12月はファイナルテストやプロジェクトの締め切りが毎日のようにあり、冬休みまでは怒涛の2週間になりそうですが、1日1日を噛みしめて参りたいと思います。